

私も、「人間とは……」と、やっていましたから、お墓はかというのは、何かあるんじゃないのかと思ったり、死んだ後は、お墓に行くぐらい思っていた訳ですよ。

ところが、実際じっさいは違うんですね。

皆さんの中でね、死んだら自分はお墓の中に行かなくてはいけないと思っている人は、即刻そつぐくそれを捨てる事——。

一五、縁えんとは約束事——嫁よめと姑しゅうとめの関係かんけい

私達は、両親と子供、そして、いろんな人との縁むすというものを、みんな結むすんで生まれて来る訳です。約束事やくそくじをしている。約束事——。

そして、その時間帯じかんたいによって、生まれて来て、結婚して、そして子供が出来る。

この前、こういう事を相談に来た人いるんですね、

「先生、ちよつと相談したい事があるのですが……」

「どういう事ですか？」

「実は、私が死んだら、里さとの墓はかに入りたいのですが……」

——里さとの墓はかに入りたい……要ようは里さとに帰りたい訳ですよ。

そのご婦人ふじんは、今はお姑しゅうとめさんと一緒に住んでいるんですね。

みんな、そんな事を思ってるんじゃないかというような話ですね、これは——。

「どうしてそんな事、言うの？」

「はあ……先生、出来るでしょうか？」

「そんな事、私は法律家ほうりつかじゃないから、知りませんよ。(笑) そんな……死んでから里帰りしたなんて聞いた事ないですよ。何でそんな事、言うの？」

って聞いたら、自分の嫁よめぎ先で——嫁よめぎ先といっても、もう六〇歳近い人ですよ、その人。子供も、もう一人前に結婚している人なんですよ。お盆ぼんになって、お墓参まいりに行った。家いえ中ちゆうで行ったそうですよ。

その人のね、お姑しゅうとめさんが物凄く意地悪いじわるな人なんです。悉く意地悪いじわるするんですよ。ですから、憎にくらしくつてしょうがない訳ですね。

お墓参りに行つて、手を合わせていた時に、ふと傍にいたそのお姑さんを見たそうですよ。途端にね、「私はこの人と一緒のお墓に入りたくない！」って思ったんですね。余程やられてる訳ですよ。（笑）

「あなたは、何故そんな事言うの。憎らしかったら、何故もつと中に入つていけないの。逃げるからダメなんじゃないの？」

「そんなもんでしようか——」

——そんなもんでしようかって言つたつて、そうですね。（笑）

まあ、これじゃあ、どうにもならないですね。お墓の中に入つても喧嘩するんじゃないでしようかね、あれ——。

ところが、このお姑さんと嫁さんの二人の心の中を覗いていったら、この二人は、実は約束しているんですね。もちろん、夫婦も約束がありますからね。

人間というのは、生まれて死んで、あの世に帰つて、またこの世に出て来ると、これを繰り返している訳ですよ。生まれて死ぬ——これを繰り返してる訳ですよ。

そうすると、ブーッと（転生輪廻する中で）過去というものがある訳です。

しかも、そのお姑さんによつては、この過去の何処かで、自分の母親になつた事がある人も多い訳ですよ。

そうすると、今、嫁ぎ先で厭なババアがいる、厭なジジイがいる——そう思つたらお終い。

「私はかつて、この人と親子だったかもしれない。その時に親不孝をしていたかもしれない。だから、私は少しくらい厭でも、姑に仕えよう。私は昔の恩返しをしよう」と、そうは思えないでしようか。その辺が、やはり大事ですね。

ところが、それが分からないから、嫁姑の争いは、何処にでもある。本当に厭ですねえ。何とかならないでしようかね。

お姑さん死んだら、お嫁さんは、お葬式の時に取り敢えず泣くかもしれない。しかし心の中では、バンザイやってやるかもしれないですね。（笑）

人間というのは、本当に愚かなものですね。

しかし、そういう人は、今度、自分が姑になつた時にやられるんですよ。——そうですね。何故かと言いますと、この世の中は、作用すれば、反作用というのが必ず起

きるんですね。ボールを下に落とすと、弾き返してきますよね——こういう事なんですよ。上から物を落とせば跳ね返る。こうやれば、一番よく分かりますよね。

そうすると、人に意地悪したら、今度は自分が意地悪されるんですよ。それは、今はされないかもしれない。しかし、こうやってズーツと転生を繰り返してる中で、何処かで必ずやられるんですよ。

「わたしや、やられたっていゝわ」って、やって貰いたいという人は、話は別——。

そうすると、今、自分は人々にどういう事をしているのか。生まれて来た中で、私達のやるべき事は——人に幸せを提供する、人の為に少しでもお役に立てるような生活をする——そういう事ですね。

——次回に続く

次回「一六、己が己自身を裁く——閻魔大王は己の心の中に」の更新予定は、四月第四週目です。お楽しみに。